

美人画研究会の活動報告 (2019年4月～2019年9月)

美人画研究会は2015年3月に第1回研究会を開催してから本年4月で5年目を迎えました。4月14日(日)の第19回、7月6日(土)の第20回、8月25日(日)の第21回の3回の活動報告をさせていただきます。

第19回はC(クリエイティブ)タイプを森下文化センターにて開催。第1部に顔学会会員でメイクアップアーティストの高橋光さんを講師にお迎えし、「make-upは3D…骨格は変えられる?」のタイトルで美人顔を演出するテクニックを教えてくださいました。特に顔の側面とグラデーションを意識することが重要なポイントです。実際に顔土台の描かれた紙面上に顔パーツを描き入れながら学びました。メイクの実演では熊本県からお越しの顔学会会員・古庄さんがモデルになってくださり、眉の形や肌の質感の変化、落ち着いたワントーンメイクで美人顔が演出できることを目の当たりにすることができました。



第2部は世界3大美女・楊貴妃の絵を描いて持ち寄り、美人と言われたエピソードや歴史背景を話し合いました。

第20回は畑江麻里さん主催のA(アカデミック)タイプの研究会で、拓殖大学文京キャンパスで開催。第1部は以下の研究内容を3名の若手研究者が発表くださいました。

- 1)「大正・夢二美人の描線-明治の周延美人との比較から-」畑江麻里氏(区立博物館)
- 2)「帝展日本画部における美人画の変遷」岩崎達也氏(美術史家)
- 3)「歌川国芳の描く江戸美人」中澤麻衣氏(中山道広重美術館)



第2部は国際浮世絵学会常任理事の稲垣進一先生に、「英泉の美人画-妖艶美の世界」のタイトルでお話しいただき、ご持参くださった浮世絵版画を多数見せていただきました。その後、帝京大学教授で群馬県立美術館館長の岡部昌幸先生がご自身の所蔵する多様な美人画をラウンジに展示くださり、説明をお聞きしながらワインを楽しむ鑑賞会となりました。記念すべき20回目の研究会では、江戸、明治、大正、昭和の様々な美人画や絵師について、その変遷や特徴を知ることができました。

第21回はCタイプ、森下文化センターで、顔学会会員・尚美学園大学講師の斎藤忍氏がCG加工で作る美人顔について実演してくださいました。AdobeソフトのPhotoshopを使用し、女性の顔写真を参加者のリクエスト通りに変化させていきます。様々な加工ツールをいとも簡単に操る技術に、一同目を見張りました。しかし完成した美人が元の顔よりも美しくなったかどうかは評価の分かれるところ。後半では、世界3大美女・小野小町の絵を持ち寄り、エピソード、歴史背景を話し合いました。この3大美女の作品は、17回のクレオパトラ、19回の楊貴妃、21回の小野小町を並べてフォーラム顔学2019にて作品展示いたしました。また、美人顔を作るテクニックも、17回「福笑いdeベッピン誕生!」の配置美人、19回のメイク美人、21回の加工美人という3つのメソッドをポスター発表いたしました。



さらに、クリエイティブ会のレギュラーメンバーによる美人画展を9月20日～28日に東京都京橋のギャラリー・オルテールにて開催し、様々な画材で描く異なるタイプの美人画を披露いたしました。詳細は美人画研究会ホームページをご覧ください。(松永 伸子)



編集委員会だより

令和初となる前号(第70号)および今回のニュースレターはいかがでしたでしょうか? ニュースレターを皆様のもとにお届けするのに欠かせない存在が、日本顔学会の事務局です。デザイン会社とのやりとりや郵送のとりまとめなど、編集委員とともに多大な貢献をしてくださっています。そんな事務局ですが、前号をもって担当の毛塚さんが退職されました。ニュースレターの一般公開化を始め、我々編集委員から提案した新しい試みも快く受け入れてくださいました。この場を借りて御礼申し上げます。今号からは平坂さんが復帰され、精力的にご支援くださっています。引き続き、充実したニュースレターをお届けできるよう、編集委員ともども頑張ってます。(中洲 俊信)



メンバー募集中!

イベントなどでニュースレターを配布・広報いただける場合は、事務局までお知らせ下さい。

J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニュースレター 71号



24 DECEMBER 2019 Vol.71 <http://www.jface.jp>

Contents

- P1~2. 第24回日本顔学会大会(フォーラム顔学2019)開催報告
- P3. 第57回イブニングセミナー 活動報告/2019年度総会報告/図書紹介
- P4. 美人画研究会 活動報告/編集委員会だより

第24回日本顔学会大会(フォーラム顔学2019)開催報告



会場参加者

第24回日本顔学会大会(フォーラム顔学2019)が9月14日(土)・15日(日)に、北海道情報大学で開催されました。初の北海道開催となった今大会には、146名の方にご参加いただき、14日の午後には日本顔学会総会が開催されました。



挨拶をする菅沼薫日本顔学会会長(左)と松井伸也大会長(中央)、司会の藤原孝幸プログラム委員長(右)

口頭発表

口頭発表は20件(5セッション)の発表があり、興味深い研究発表と活発な議論がおこなわれました。また、2日目には、「顔・身体学」領域との共催の公開サテライトシンポジウム「顔の科学:内側から見た顔」が北海道大学にて開催されました。



口頭発表

ポスターセッション

ポスター発表は25件(2セッション)の発表がありました。ポスターセッションに先立ち、発表者はポスターの概要説明を口頭発表会場でおこないました。ポスター発表でも熱い議論があちこちでおこなわれました。



ポスターセッション

■原島賞、興水賞

原島賞は、「顔向きを合わせることが無意識的な対人運動協調に及ぼす影響」を発表された東京大学大学院の向井香瑛さん、興水賞は、「紙芝居における観客の観察手法に関する一検討」を発表された長崎県立大学の前村葉子先生がそれぞれ受賞されました。



左から興水大和先生、原島賞の向井香瑛さん、原島博先生、興水賞の前村葉子先生

■デモ発表／作品展示／企業展示

デモ発表は2件、作品展示は8件、企業展示は5件ありました。参加者はデモや展示、システム、そして似顔絵作家のみなさんによる似顔絵を体験しました。



デモ発表／作品展示／企業展示

■特別講演（2題）

14日には北星学園大学学長の大坊郁夫先生に、「well-beingを目指す科学としての顔コミュニケーション～日本韓国中国の比較研究を踏まえて～」と題してご講演いただきました。日本、韓国、中国の顔の認知の違いを文化差と関連付け、異文化ではなく多文化であることと相互理解の必要性についてお話いただきました。

15日には、3DCG制作を行うユニット「TELYUKA（テルユカ）」のお二人に、「Virtual Human Projects」と題してご講演いただきました。「不気味の谷を越えた!!」と話題になったCGキャラクター「Saya」の誕生から未来までを語っていただきました。



大坊郁夫先生（左）とTELYUKAのお二人（右）

■イブニングシンポジウム

イブニングシンポジウムは、北海道情報大学カフェテリアで開催されました。発表会場とは異なる議論、談笑、そして日頃話す機会のない分野の方との交流もあり、親睦がふかまりました。また、北海道情報大学の教育のひとつがゲーム開発であることから、特別企画として謎解きゲームが実施されました。発表会場に仕込まれた謎を会議の合間に解く企画で、イブニングシンポジウムにて解答されました。謎はなかなかの難題で、解答の問いたるところでどよめきがおこりました。また、即席企画として、似顔絵作家のみなさんによる似顔絵体験も行われました。



イブニングシンポジウム



藤原プログラム委員長による謎解きの解答

続いて、発表件数と参加者の大会報告があり、その後「顔・身体学」領域の山口真美先生より公開サテライトシンポジウム「顔の科学：内側から見た顔」の紹介がありました。そして、来年に慶応大学で開催されるフォーラム顔学2020の紹介のあと、向田茂実行委員長による閉会の挨拶となりました。



「顔・身体学」領域の山口真美先生（左）と向田茂実行委員長（右）

■謝辞

沢山の方々に研究発表と展示、そして熱心な議論をいただき誠にありがとうございました。令和最初の大会を無事に実施することができました。

本大会を開催するにあたって多大なご協力とご支援をいただきました日本顔学会の菅沼薫会長をはじめ理事会の皆さま、会員の皆様にご心より御礼を申し上げます。最後に、日本顔学会の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

（フォーラム顔学2019大会長 松井 伸也）

第57回イブニングセミナー「直観、妄想、シュールの似顔絵」

「似顔絵を楽しむ」シリーズ第2回

日時：2019年11月1日（金）18：00～20：30

講師：数学絵師 大野 寛武 先生

場所：中央大学駿河台記念館

大野先生は、小さい時（2歳）から絵を描くことが好きで、毎日模造紙1枚描き切るとい生活から始まり、ご自身の評価ではADHD（注意力がすぐ別のことへ向かう、じっとしてられない、思いついたらすぐ行動に出る）的な子供だったとのこと。中学、高校でもユニークでレベルの高い指導を受けて、ダリやマグリットの影響を受けた「シュール」な油彩で美術展に入選する一方で、次第に似顔絵の道に深く分け入って行きます。横浜国大数学科を卒業後、藤沢の中学での数学の先生、そして校長というお仕事の傍で、週刊朝日の山藤章二の似顔絵塾特待生、TVチャンピオン似顔絵選手権優勝など、着々と真価を発揮され、現在では山藤章二塾特待生の発表会「フェイスタ」代表をしておられます。

お父上が数学の先生で、かつ絵がとても上手であったという遺伝的な環境にも恵まれながら、大野先生はまた絵に限らず、音楽、演劇、写真、レタリングなどさまざまな分野にも深く携われ、落語は一度聞いたら全部を記憶してしまう特殊技能にものを言わせて、学生時代には演芸会も数多くこなされたということです。黒板に背を向けたまま後ろ手に字を

書く、両手で同時に書く、机の相手方に向けて逆さ文字を書く、ダ・ヴィンチのように左手で（元々左利き）鏡面文字を書くということも自由自在とのこと。海外旅行では、必ず現地の言語を勉強して使ってみるなど万能選手ぶりを発揮されています。



顔の描き方の教科書では、まず輪郭を書いて、次に各パーツのバランスを配置して行く、というのがノーマルな描き方ですが、「大野流」は思いついたところから始めます。一瞬で最終の形が閃く「直観」、この人ならこんなタイプやスタイル（例えばロボット、不動明王など）が似合うというような「妄想」に従って、イメージやストーリーを膨らませながら自由に描いて行きます。最初は手描きでしたが、その後はMacやiPadを活用されているとのこと。

講演の最後には「大野流似顔絵を描いてみよう」と、参加者が画面でリーチ・マイケルなど3人のラグビー選手の写真を見て、まずそれぞれ30秒で描いて、その中で良いと思える人を、今度は15分で仕上げてみるという「実技」の時間もありました。（城戸崎 雅崇）

2019年度総会報告

9月14日（土）に、フォーラム顔学2019会場（北海道情報大学 松尾記念館 講堂）において2019年度の日本顔学会総会が開催されました。

会長の菅沼さんの開会あいさつに続き、本年度の活動報告が行われました。開催中のフォーラム顔学2019の概況報告、ならびに翌15日に開催される「顔・身体学」領域との共催による公開サテライトシンポジウムの告知のほか、イブニングセミナー、学会誌、ニューズレターなどの定期的な活動報告、公認サークルである若手交流会および美人画研究会の活動紹介が行われました。

続いて2018年度の決算報告が行われました。会計担当理事の武川さんから一般会計および特別会計（フォーラム顔学2018）についての収支状況の説明に続き、監事の村上さんから会計が適正であった旨の会計監査報告が行われました。昨年度の決算報告は満場の拍手をもって承認されました。

次に、菅沼さんから昨年度の総会にて承認のうえ改定され

た、「賛助会員」の入会金引き下げと口数下限の撤廃、および会費減免制度が再告知されました。ここで、賛助会員は学会活動に賛助できるうえ、企業など組織の図書室における学会誌の閲覧も可能となる制度であることが説明されました。続いて2020-2021年度の役員、評議員会、および2019年度からの学会誌編集委員会、ニューズレター編集委員の構成とメンバーの報告が行われました。

その後、菅沼さんから来年度開催のフォーラム顔学2020（慶應義塾大学・三田キャンパス）および日本顔学会25周年記念事業を含む、学会の一層の活性化を目指した2020年度活動計画案が提案され、最後に武川さんより、例年と同様の収入・支出の想定のもとに、2020年度の一般会計予算案が提案されました。これらの提案は満場の拍手をもって承認され、今年度の日本顔学会総会は予定された議事を滞りなく終了して閉会となりました。

（総務担当理事 今井 健雄）

図書紹介



美容室でできる
アビアランスサポートマニュアル
全国福祉理美容師養成協会 著
ISBN-10：4906941656
ISBN-13：978-4906941650
発売：2018年4月
定価：2,800円（本体）
発行所：女性モード社



日本肖像画史—奈良時代から幕末まで、特に近世の女性・幼童像を中心として
成瀬不二雄 著
ISBN-10：4805504722
ISBN-13：978-4805504727
発売：2004年7月
定価：4,200円（本体）
発行所：中央公論美術出版



江戸時代人物画帳—シーボルトのお抱え
絵師・川原慶賀の描いた庶民の姿—
小林淳一 編 著
ISBN-10：4022514159
ISBN-13：978-4022514158
発売：2016年9月
定価：1,800円（本体）
発行所：朝日新聞出版



美容は自尊心の筋トレ
長田杏奈 著
ISBN-10：4909483306
ISBN-13：978-4909483300
発売：2019年6月
定価：1,480円（本体）
発行所：Pヴァイン